

山田中学校だより 10月号

平成24年10月2日

学校と
家庭と
地域を



つなぐ

10月

三島市立山田中学校

※学校ホームページでもご覧になれます。

第1回学校評議委員会にて（7月12日）



7月に行われた学校評議委員会では、委員の皆様にも、次のような学校の夢を述べさせていただきました。

『本校では、将来、社会人として、また、職業人として立派に活躍できるように、「学ぶこと」と「生きることや働くこと」をつなぐ視点からキャリア教育を実践し、「生き方を求めて学ぶ生徒」その姿が日々の生活の中に現れ、毎日一生懸命頑張る生徒を目指しています。

そのために、社会でご活躍中の方々から講話をいただき、子どもたちの将来の夢を育てています。これまでの社会人講師をお招きした講演会として、

*平成23年6月16日（対象 全学年）

演題 「開校当初に想う」（本校創立20周年記念式典にて）

講師 増田 満 氏（初代三島市立山田中学校長）

*平成23年6月20日（対象 全学年）

演題 「東日本大震災のボランティア体験」

講師 甲斐 幸博 氏（前三島市議会議員）

*平成23年11月10日（対象 2学年）

演題 「夢を持つ」

講師 青野 光男 氏（瓦葺き職人 静岡匠の会メンバー 静岡県技能マイスター）

*平成23年12月15日（対象 1・2学年）

演題 「学ぶことの大切さ」

講師 秋津 温 氏（静岡県三島南高等学校副校長）

*平成24年1月12日（対象 1年生） 平成24年2月9日（対象 2年生）

演題 「夢は必ず叶う」

講師 石川 征雄 氏（ミツイシ電化センター社長・エイデン経営者）

*平成24年3月2日（対象 2学年）

演題 「命の講話」

講師 本田こず枝 氏（助産師 本校保護者）

*平成24年6月16日（対象 全学年）

演題 「現代の若者に期待すること」

講師 堀井 哲也 氏（J R 東日本硬式野球部監督）



の方々からご講話をいただいています。また、本年度の今後の講話は、10月と2月の2回予定しています・・・。』

このようなお話をさせていただいた後に、委員の一人から次のような手記『雨の中のバラ』をいただきました。子どもたちの「生き方」の参考になるうかと、ここに掲げさせていただきました（別添資料をご覧ください）。そして、ますます子どもたちが大きな夢に向かって、頑張っていってほしいと願っております。

本校学校評議委員の皆様の紹介

美和 靖之 氏（剣道道場経営）

若松町において剣道場「武修館」を経営され、青少年の心身の修養と鍛錬に力を注いでいらっしゃいます。また、長年保護司を務められ、地区の青少年の健全育成に貢献をしてくださっています。これまで、本校生徒の健全育成について貴重なご意見をいただいております。なお、10月5日（金）の前期終業式にてご講話をいただく予定です。

米山 靖彦 氏（歯科医師）

壱町田で歯科医院を経営され、本校創立当時の平成4年度から平成22年度まで本校の学校歯科医としてもご尽力いただきました。歯科衛生の観点から日常生活について具体的なアドバイスをしてくださることはもちろんのこと、創立当時から学校経営に参画され、子どもたちを見守ってこられた方ならではの貴重なご意見をいただいております。

後藤 正治 氏（弁護士）

沼津市の「のぞみ法律事務所」に所属され、弁護士として日々社会の動きに目を配りながら社会正義の実現のためにご活躍されております（三島市大宮町に在住です）。青少年の健全育成にも造詣が深く、法律の専門家の立場から、具体的な助言をいただいております。本校学校評議委員は昨年からです。お仕事でお忙しいにも関わらず、「私でお役に立つようなことがあれば・・・」と、快く委員を引き受けてくださいました。

Fair Castに関するお詫びとお知らせ

先日（9月14日）には「大雨警報及び洪水警報の対応について」の連絡をフェアキャストで流しました。いくつか連絡が届かないご家庭もあり、大変ご迷惑をおかけしました。今回は大きな混乱もなく、予定されていた授業を実施することができました。

フェアキャストで流した連絡内容を同時に学校ブログにも掲載しましたが、今回は学校ブログに掲載するのが遅くなりました。改めて、お詫び申し上げます。

ご家庭に連絡が届いたら、必ず送達確認をしてください。（メール、携帯電話、固定電話でも可能。音声連絡の場合は、最後に送達確認の説明が流れます。）

メールアドレスを変更した場合は、各自再登録をお願いします。また、連絡が届かなかった場合には、担任にご相談ください。（迷惑メール設定になっている場合には、届かないこともあります。）

合唱コンクールのお礼

先日（9月29日）に、三島市文化会館で青峰祭文化の部が行われました。本年度は土曜日開催することができたので、多くの来賓や保護者の方にご参観いただくことができました。

生徒は保護者や親類の方にご参観していただくと、普段にも増して一生懸命にクラス合唱に取り組んでいる様子が見られました。素晴らしく、感動する合唱を堪能していただけたでしょうか。

次の機会にも、ぜひ山田中の学校行事にご参加ください。



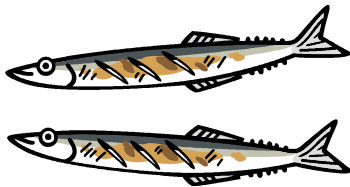
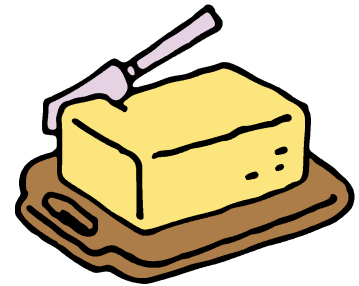
「雨の中のバラ」

本校学校評議委員（弁護士） 後藤 正治 氏

早朝から豆腐作りを始める。豆腐作りを終えると、次ぎは、加工品のあぶらげ、厚揚げ、がんもどき、焼き豆腐作りに移る。加工品の下作りを終えると、10時頃になる。そこから豆腐売りに出かける。

午前中に豆腐売りに出かけるのは、箱根山系の村落である。私の売り場は、国道1号線方面か、玉沢方面の2つになる。国道1号線方面は、静岡県三島市塚原新田、市山新田、三ツ谷新田、笹原新田、山中新田と売って歩く。玉沢は、玉沢本村と、玉沢妙法華寺を過ぎた本堂裏、奥山、桑原、台崎と村落が続く。

春先は、菜の花が溢れ、野に草々もかわいらしい花をつける。夏は、汗を拭う日となり、せみの鳴き声がかしましい。秋は、サツマイモや陸稲の収穫があり、山栗が道ばたに転がり落ちる。冬は、自然も殺風景となり、時に、雪に覆われる。



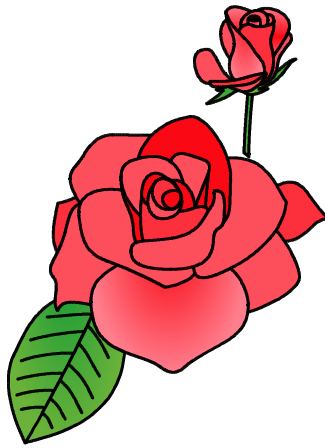
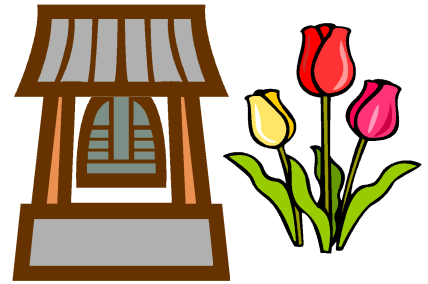
豆腐売りの競争相手は、玉沢方面では、私と同じ谷田小山山中島の増田魚屋さんだ。先を越され、魚を売られると、売り上げがグンと減り、豆腐や加工品が売れ残るので、台崎、更には、三ツ谷新田まで足を伸ばして、売りに行かなければならなくなる。農家の方々が、魚も、豆腐も、両方買ってくれるといいが、野菜の大豆でできた豆腐より、魚の方に目が行くようで、魚屋が通過した後に豆腐を売りに行くと客足は、ぐっと減る。だから、彼が売りに出るか出ないかが問題だ。彼が今日、玉沢へ売りに行くというのであれば、玉沢方面は、避けて、国道1号線方面に行った方が良くなる。しかし、彼が売りに行くリズムは分からない。

そこで、私は、『玉沢の森本だけれど、今日は、来るの？』、ある時は、『玉沢の野口だけれど、今日は、来ない？』と、増田さんが行商に行くかどうか、電話する。増田さんは、「昨日、行ったばかりだから、今日は行かない。」「今日は、忙しいので、行けない。」「今日は、行くよ。」こんな回答となり、私は、これらの情報を下に売りに出かける。増田さんが行商した3・4日後が、買い貯めした魚の在庫が減るから一番いい。情報収集が功を奏する場が多かった。

快調な売出しを期待して、行くと、『あれ、増田さんがいる。変だな。』増田さんは、競争相手だが、人柄のいい方で、私は、挨拶をよくする。『増田さん。こんにち。いい天気ですね。売れ行きどう？今日は、来る日なの？』「忙しいんで、来るつもりではなかったんだけど、電話があってね。前、来た日から日が空いていたので、来ることにしたんだ。」「あれ、失敗。俺の電話だ。これが原因で、来てしまったか。』こうして逆効果のこともあり、情報収集はいつしか、しなくなってしまった。



玉沢本村，本堂裏を売り終わり，奥山に入った。奥山は，10軒ほどの集落だが，中ほどに妙法結社という神社がある。神社の参道へ上がる手前に，台崎，三ツ谷新田に通じる道路が走る。道路の端を見ると，道路に沿って細長い花壇があった。ここには，ある時はチューリップ，時にダリアの花を見た。しかし，今日は，雨，ここには，バラがあった。バラは，こぶし大の大きさの真紅のつぼみをつけている。



根元からは，ピンクの新芽が60cmほどの長さにグングンと伸びていた。新芽の針も初々しく，6月の雨は，奥山部落を包み，バラに降り注いでいる。私は，その鮮烈さに目を見張った。

「くれなるの二尺伸びたる薔薇の芽の 針やはらかに春雨のふる」

定時制高校のとき，国語に出てきた正岡子規の歌が浮かび上がってきた。『この歌のようなバラが本当にあったのだ。』言い知れぬ感動があふれた。この花壇は，長塚さんの奥さんが丹精して育てていたものだった。私は，奥さんにバラの枝を1本貰い，家に持って行って挿し木にした。1年が経ち，このバラは，我が家に根付いた。

24才，豆腐屋から司法書士になり，苦しい司法試験が始まった。挿し木にして2～3年後くらいから，このバラは，毎年，こぶし大の大きさの真紅のつぼみを付け，6月には，春雨の中にあつた。5月は，短答式試験があり，6月は，論文式を迎える精神的に厳しい時期だ。こんな時，このバラは，玉沢の思い出を蘇らせてくれた。あのころは，司法試験の勉強すらできなかつた。今，苦しいけれど，試験を受けることができる身分となつた。バラは，明るく励ましてくれた。



試験が10年の長きに渡つた。私は合格するのだろうか，こんな日が続き，バラへの配慮をなくしていた。このバラ，今はない。どうなつたのだろうか。どうしたのだろうか。このバラを失わせてしまったことは，私のミスだ。

6月，バラ園に行くことがある。花屋さんの店頭で，深紅のバラと出会う時がある。いつも，短歌と玉沢の雨の中のバラがよみがえる。バラは，「あの頃と同じようにガンバっているか」と語りかけているように思える。

2009.9.3 (木) 記
2012.6.14 (木) 追記

